



松井須磨子

構成・演出 加来英治

出演 栗原小巻

音楽《ピアノ》城所 潔

美術=石井強司/衣裳デザイン=栗原小巻/照明=山本博史/音響=西田実 宗野 忠/舞台監督=大山慎一/制作担当=横田みはる
企画・製作=エイコーン

2021年/第321回 旭川市民劇場6月例会

6月22日(火) 6:30
23日(水) 2:00

会場/旭川市公会堂 上演時間 1時間30分(休憩なし) 旭川市民劇場 旭川市3条通8丁目 緑橋ビル1号館2F TEL0166-23-1655

入会のご案内

入会金	2,000円	会員になると年6回の演劇を鑑賞できます。詳しくは事務局まで。
会費(月)	一般 2,500円	
	大学生 1,000円	
	中高生 500円	

次例会のご案内

〈8月例会〉劇団チョコレートケーキ
『一九一一年』
8月30日(月) 6:30
31日(火) 1:30 旭川市公会堂

松井須磨子

近代演劇史上に、一瞬の花を咲かせ、儂く散った、

日本新劇最初の女優、松井須磨子。

芸術への深い愛、人生の機微を、独白の形で、物語は進行する。

『人形の家』の主人公のノラ、『復活』のヒロイン、カチューシャ等々、須磨子が演じた役の西洋の思想と、須磨子自身の日本の魂が重なり、交錯し、新しい時代の息吹きが生まれる。

栗原小巻演じる松井須磨子とピアニスト城所潔の演奏で、百年前の、幻の芸術座(島村抱月と須磨子が設立した劇場)が、蜃気楼のように、はるかな霧の彼方に甦る。

須磨子は、結婚に破れ、自殺未遂という悲劇を乗り越え、生涯を捧げる崇高な演劇と、運命のひと、島村抱月に出会う。

二人は、力を合わせ、心を通わせ、新劇という困難な道を、歩みだす。やがて、須磨子の芝居そして歌は、民衆に受け入れられ、その人生の絶頂期を迎える。

だが、須磨子の芸術人生は、抱月の死と共に、突然に終焉する。

「いのち短し、恋せよ乙女」須磨子の『ゴンドラの歌』が、聞こえ響く、永遠に。



松井須磨子

松井須磨子さんが、新しい演劇、新しい女性像を創造しました。

この作品で、芸術の喜び、その苦悩を演じる事が出来ればと願っています。

鑑賞運動、市民劇場と共に、わたくしの俳優人生はあります。

真の友情と連帯——、感謝をこめて

栗原小巻